



レイアウトを崩さず中国語に自動翻訳された越谷市のトップページ

「意見もあり、自動翻訳の本格的な検討が  
 開始された」という。「外国人も同じ市民。日本人と同じように、行政情報を丸ごと見てもらおうとする」と、自動翻訳は当然の帰着点と見なされた（荒川氏）。

**翻訳精度と辞書機能に高い満足度  
 言い直し改善のアドバイスに期待**

当時、すでにポータルサイトなどいわゆる「無料翻訳サービス」が広く提供されていたが、まず翻訳サイトを開設してから翻訳したいページのURLを打ち込む必要があるなど、ワンクリックサービスとはいかなかった。また、辞書登録機能がないため、地名などの固有名詞を翻訳する機会が多かった。「操作が容易で精度も高い自動翻訳サービスを探しているうちに、大手企業や官公庁、大学などでの導入実績が豊富な

埼玉県越谷市は、自然に恵まれた「水郷こしがや」と古くから呼ばれ、2008年で市制50周年を迎える。都心から25キロ圏内という利便性と鉄道など交通網の発達により人口は30万人を超え、県南東部の中核都市として発展してきた。同時に、市内の外国人登録者数も増加し、現在では約4300人と人口の1.3%を超えている。これまでは、市内在住の外国人向けに各種行政情報の一部を手作業で英語などに翻訳してきたが、高い自動翻訳技術で定評がある株式会社高電社の翻訳エンジンの利用を検討、08年4月から同社のASPサービスを導入し、ホームページ上のすべての情報を多言語自動翻訳する住民向けサービスを開始した。

## 越谷市がホームページの多言語自動翻訳サービスを開始 ASPを活用して中国語・韓国語・英語にリアルタイム翻訳

### ホームページのすべての情報を3か国語に自動翻訳

日本語によるオリジナルページを自動翻訳するときは、トップページ上部の「Multilingual (マルチリンガル)」と表記されたボタンをクリックして、中国語・韓国語・英語の中から希望する言語を選択。自動翻訳である旨の注意文を読んで「OK」をクリックすると高電社の翻訳ASPサーバーにアクセスし、新しいウィンドウが開いて翻訳されたトップページが表示される。以降は、同一ドメイン内の下層ページやリンク先のページがすべて自動的に翻訳される。

翻訳結果は、元になるレイアウトをほとんど崩さず表示される。翻訳の対象となるのはHTMLで記述されたすべてのテキスト情報で、ページタイトルやCMS（コンテンツ管理システム）で標準化したテキストなども翻訳して表示される。画像貼り付けによるバナーや見出しなどの非テキスト情報は翻訳できないが、カリルを置いたときに表示するalt属性は翻訳できる。

ホームページを通じて日本語で提供されるすべての行政情報を自動翻訳できる。在住外国人向けの情報提供量は飛躍的に増加した。リアルタイム翻訳なので情報の鮮度が落ちることなく、ニュースやイベント情報などをタイムリーに提供できるほか、緊急・災害時の情報基盤としての活用も可能になった。

翻訳精度は「どのような内容かを理解できる」を100%とした場合の検証結果で、韓国語が85～95%、中国語が80～90%、英語が75～85%（高電社調べ）。また、導入に先立ち越谷市が独自に実施したネイティブスピーカーによる翻訳内容の検証でも、3言語とも100%の翻訳率ではないものの、「問題なく理解できる」との結果が出たという。

### 検 討開始のきっかけはホームページのリニューアル

越谷市における外国人登録者数は、最近10年で1.6倍に増加しており、外国人市民への情報提供が必要になってきている。外国人登録者のうち約30%は中国系約20%が韓国及び朝鮮系、同じく約20%がフィリピン系で、その他にもブラジル系、タイ系、バキスタン系、バングラデッシュ系など多岐にわたるが、話される言語は中国語・韓国語・英語が上位を占めている。

従来、在住外国人向けには、中国語・韓国語・英語・ポルトガル語版「こみかレター」「防災マップ」や、英語・タガログ語版広報紙「コシガヤメッセンジャー」「英語版「市民ガイドブック」「こしがやガイドマップ」などを配付。また、97年には日本語とは別に英語版ホームページを開設して行政情報の提供に努めてきた。

しかし、翻訳作業はボランティアの外国人などに頼る部分が多かったため時間的・情報量的にも限界があることは否めず、とくにホームページに新しい情報を掲載することが難しかった。「越谷市のホームページは06年11月にリニューアルして飛躍的に改善されましたが、その際に足りない部分もいろいろと見えてきました。なかでも英語版は情報量が貧弱といわざるを得ませんでした」と、秘書室副参事兼広報広聴課長の荒川和弘氏は語る。

リニューアルに合わせて、越谷市ではユーザーリティとアクセシビリティの向上を図るための支援ソフトを導入した。高齢者や障がい者にも配慮した機能をホームページに組み込み、その環としてボタンをクリックすると日本語をローマ字表示できる機能も搭載された。

ローマ字表示は比較的好評だったがいっそのこと翻訳までできないものかという意見もあり、自動翻訳の本格的な検討が開始されたという。「外国人も同じ市民。日本人と同じように、行政情報を丸ごと見てもらおうとする」と、自動翻訳は当然の帰着点と見なされた（荒川氏）。

「SPEEDY田を知りました」と、秘書室広報広聴課の副主幹、南正勝氏は話す。「国際交流担当部門の協力を得て翻訳精度の検証を行ったところ「意外とすごい」との声で、あらかじめ自動翻訳であることを理解していたれば、翻訳結果が非常に満足できる内容でした。また、まさに望んでいたおりの辞書機能があったのです」。

たとえば、市内の「大袋」（おおちぶくろ）という地名を自動翻訳で英訳すると、普通は「big」と訳出してしまったり、しかし、「この土地名・駅名・人名などの固有名詞を、SPEEDY田ではオンラインユーザー辞書に簡単に登録することができ、「Ondanku」と訳出することができ、文章単位の登録も可能なので、ネイティブによる翻訳結果を自動翻訳と共存させることもできる。

### A ASPサービスの活用で月額負担は約8万円から

独自サーバーや専属スタッフが必要で

越谷市秘書室副参事兼  
 広報広聴課長  
 荒川和弘氏



越谷市秘書室  
 広報広聴課  
 南正勝氏



越谷市（こしがや）  
 面積：60.91km<sup>2</sup>  
 人口：320,820人  
 世帯数：130,392世帯（2008年4月1日現在）  
 問い合わせ先：秘書室広報広聴課  
 住所：〒343-8501 埼玉県越谷市越谷4-2-1  
 電話：048-963-9117（直通）  
 URL：www.city.koshigaya.saitama.jp

越谷市制50周年  
 KOSHIGAYA



高電社は、1979年の創業以来、自動翻訳にリソースを集中し、言語・翻訳の分野において長年研究を積み重ねて高品質なソフトウェアを開発。中国語統合ソフト「ChineseWriter」や日中・中日翻訳ソフト「J・北京」などのロングセラー製品を提供してきた。2000年にポータルサイト「翻訳ステーション J-SERVER」(www.j-server.com)を公開し、日・中・韓・英の各言語間の翻訳サービスを開始。クリックひとつで国境を越える翻訳ASPサービス「My サイト翻訳」「翻訳ゲートウェイ」や翻訳エンジンのレンタルサービスは、高い翻訳精度を低コスト・短時間で導入できるため、ユーザーから圧倒的な支持と信頼を得ている。国内での製品・サービスの導入実績は、NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクなどの通信キャリア、倉敷市、越谷市、佐世保市などの地方自治体のほか、大手企業、官公庁、大学など多数。

【請求先】  
 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-18 第3神田セントラルビル2階  
 Tel 03-3256-3061 / Fax 03-3256-3063

KODENSHA J-SERVER  
 サービスについて詳しくはこちら  
 http://www.j-server.com/pr/gv

【問い合わせ先】  
 株式会社 高電社  
 本社  
 〒545-0011 大阪府大阪市阿倍野区桜和町3-7-1  
 Tel 06-6628-8880 / Fax 06-6628-2351 / URL www.kodensha.jp  
 E-mail j-server@kodensha.jp